

2024年度 一般社団法人 東金青年会議所
理事長所信

内山 直記

『はじめに』

本年に入り新型コロナウイルス感染症も収束傾向となり、通常の生活に戻りつつありますが、制限の中で失われた時間は二度と戻りません。

東金青年会議所も何年かにわたり会員拡大に苦戦し、思うような成長が難しい状況に直面していました。

しかし、このような状況においても、JCの先輩方やメンバーの中には情熱を持つ方々が多く存在します。だからこそ、この情熱を絶やさずに育てていくことが何より重要と考えます。

わたしは理事長の任を預かるにあたり楽しいという感情があります。それは短期間で得た知識や多くの人々との出会いを通じて、自身の志が高まったからです。これからはわたしがリーダーシップを発揮し、メンバーと共に可能性を広げていき、更にメンバーが増えることで輪が広がり、地域に対してもより上質な事業を展開することができます。

だからわたしは、会員拡大することで地域に貢献できると信じている。成功を思い込むことで信念へと変わり達成への道がきっと見えるはずです。

今のメンバーと一緒に必ず達成できるとわたしは強く信じています。

『組織として』

JCの理念と理想を学び、メンバー一人ひとりが成長し、自分の目的をみつけることで、積極的な活動が可能になります。

ただし、これだけでは強い組織とは言えないと思います。一人ひとりが誠実に考え相手のことを思いやり事前に対応をしなくてはならないのです。

メンバーの主体的な成長と相手を思いやる心、いわゆる利他の精神で活動をすることにより組織としても成長ができる魅力的な団体となります。

この思考こそが会員拡大にもっとも必要で、魅力的な団体には人が集まるのは必然的です。

会員拡大するには強い組織とならなければいけません。

『まちづくり』

4年ぶりに開催されたヤッサ東金祭を経験して、今この地域に必要なのは人々が集まり交流する機会だと感じました。日常の中で当たり前と感じていたことが非日常となり、その魅力を再確認しました。人々が求める事業を実施することで必然的に人が集うのです。交流を求める時勢だからこそ、山武郡地域においてもこのような機会が必要です。

各地域の魅力が伝わる事業をすることで多くの人々が集いますが、集いだけではなく交流もできる事業をすることが必要です。

この集い交流をすることで、地域の方々が求めていることを知りJCとしてより適切な事業ができます。

こうした事業を通じて、メンバーが地域の方々と交流し、一人ひとりが地域の声を聞くことで何が地域に必要なのかを考え活動していけば、わたしたちの思いも地域の方々に伝わり会員拡大と結びつきます。

『創立 55 周年に向けて』

50周年の際、コロナ禍のため開催できなかった先輩方の想いを繋ぎ55周年を開催し、更には60周年への想いのたすきになることが大切です。

多くのメンバーそして情熱を兼ねそろえたメンバーが周年を成功させようと一致団結することが55周年では必要なことです。情熱溢れるメンバーが団結している姿をみせることで先輩方、ご協賛者様、そして地域の関係各位、全ての方に安心していただけるような周年をつくり上げていけるよう今年度から動いて参ります。

わたしが責任をもって、情熱溢れるメンバーの会員拡大を成功させます。

『終わりに』

わたしはこれまで真面目に生きてきたとはいえない人生を送ってきましたが、JCに出会いメンバーに出会い活動していくなかで、わたしの思考が変革しました。学ぶことによって、利他の心が成功には不可欠であることを理解し、学びを継続させることの大切さを知り、この理念を広く普及することがわたしの願望となりました。

わたし個人としてはJCに人徳を学ばせていただいていると思っています。先輩方、メンバー、地域の方との交流を通じて今後も学びを追求します。

新たな学びを得る一年にし、メンバーが団結し、大きな前進を達成させます。